

日本語のタイトル, 14 ポイント・行間隔固定 20 ポイント

日本語のサブタイトルがある場合, 12 ポイント

Capitalize the First Letter of Each Word, but Use Lowercase for Articles,
Conjunctions, and Prepositions | 14 pt | Line Spacing: 20 pt

Sub-title here if any, capitalize the first letter of the first word | 12 pt

山田 太郎¹, 田中 花子^{1,†}, ジェーン エリザベス スミス², アハメド ハッサン アリ³,
ジャン=ピエール デュボワ^{1,4}, ホン ギルドン⁴, マリア カルメン ロドリゲス ガルシア⁵

YAMADA Taro¹, TANAKA Hanako^{1,†}, Jane Elizabeth SMITH², Ahmed Hassan ALI³,
Jean-Pierre DUBOIS^{1,4}, HONG Gildong⁴, Maria Carmen RODRIGUEZ GARCIA⁵

¹AAA 大学大学院, ²王立 BBB 学際研究所, ³(株) CCC, ⁴国立 DDD 研究センター (CNR-DDD),
⁵EEE 大学

¹Graduate School, University of AAA, ²Royal BBB Institute for Interdisciplinary Research,
³CCC Co. LTD, ⁴Centre National de Recherche DDD (CNR-DDD), ⁵EEE University

† Correspondence: tanaka-h@example.ac.jp

ここに和文抄録 (200~400 字) を書きます。 9 ポイント・行間隔固定 13 ポイント。

サンプルテキストサンプルテキストサンプルテキストサンプルテキスト。 サンプルテキストサンプルテキストサンプ
ルテキストサンプルテキスト。 サンプルテキストサンプルテキストサンプルテキストサンプルテキスト。 サンプルテキ
ストサンプルテキストサンプルテキストサンプルテキスト。 サンプルテキストサンプルテキストサンプルテキストサ
ンプルテキスト。 サンプルテキストサンプルテキストサンプルテキストサンプルテキスト。 サンプルテキストサ
ンプルテキストサンプルテキストサンプルテキスト。 サンプルテキストサンプルテキストサンプルテキスト。 サンプル
テキストサンプルテキストサンプルテキスト。

This space is for English abstract within 300 words | 9 pt | Line Spacing: 13 pt |

This is sample text for an English abstract. You can use it to test layout, typography, etc. You can replace this
content with your own text. This is sample text for an English abstract. You can use it to test layout, typography, etc.
You can replace this content with your own text. This is sample text for an English abstract. You can use it to test
layout, typography, etc. You can replace this content with your own text. This is sample text for an English abstract.
You can use it to test layout, typography, etc. You can replace this content with your own text. This is sample text for
an English abstract. You can use it to test layout, typography, etc. You can replace this content with your own text.
This is sample text for an English abstract. You can use it to test layout, typography, etc. You can replace this content
with your own text. This is sample text for an English abstract. You can use it to test layout, typography, etc. You can
replace this content with your own text.

キーワード: キーワード 1, キーワード 2, キーワード 3, キーワード 4, キーワード 5 (5 つ以内)

Key words: Key words1, Key words2, Key words3, Key words4, Key words5 (up to five)

1. はじめに

これは日本生気象学会雑誌への投稿論文をカメラ
レディ形式で作成するためのテンプレートです。 カ
メラレディとは、原稿作成者の作った原稿をそのま
まオフセット印刷するものです。 原稿作成者の原稿

が校正なしにそのまま本の 1 頁となりますので、
充分注意して作成してください。

(2)

2. 書式

2.1. マージン・フォント

上 32 mm, 下 20 mm, 左右 23 mm のマージンを空けます。

書式全体を通じて両端揃えを原則とし、タイトル、著者名、所属機関、抄録、キーワード、本文見出し、図表・写真キャプションのフォントは、游ゴシック medium を基本とします。本文以降のフォントは、游明朝を基本とします。

1 ページ目の最上部は論文の種類および受付日・受理日を記載する欄です。この欄は受理日以降の校正の段階で日本生気象学会雑誌編集室から指示があるまでそのままにしておきます。この欄からキーワードの欄まで、表形式となっています。各セルのマージンやフォントサイズ・行間隔設定などを変更せずに、当該論文の内容に置き換えると、体裁を整えやすいです。

タイトル・著者名・所属機関・抄録・キーワードは、和文論文原稿の場合は和英(欧)、英文論文原稿の場合は英(欧)和の順とします。

2.2. タイトル

和文・英文ともにタイトルはフォントサイズ 14 ポイント、サブタイトルがある場合は 12 ポイントとし、行間隔はサブタイトルがある場合を含み 20 ポイント固定とします。タイトルとサブタイトルの間は改行します。タイトル・サブタイトルが 2 行以上にわたる場合、文節の区切りでの改行を推奨します。

2.3. 著者名・責任著者

和文と欧文を併記し、ともにフォントサイズ 10 ポイント・行間隔 13 ポイント固定とします。

和文は、日本語での通常の表記に従います。すなわち、漢字・ひらがな・カタカナ表記の名前の場合にはそのまま用い、その他の文字（ラテン文字、ハングル、アラビア文字など）の名前場合にはカタカナで音写します。

欧文は、ラテン文字で表記します。アクセント記号などの補助記号を含む文字（é, ñ など）もそのまま使用します。キリル文字、ハングル、アラビア文字などの名前は、標準的なローマ字転写方式に従って表記します。姓を大文字、名を先頭の文字のみ大文字とします。姓がなく単名の場合（ミャンマーなど）

はすべて大文字とします。

姓名の順序は、和文・欧文ともに、その名前の言語における通常の順序に従います（例：日本語名・韓国語名は姓名順、英語名・フランス語名などは名姓順）。

和文・欧文ともに、姓名の間には半角スペースを入れます。ただし複合名（ジャン＝ジャック ルソーなど）の場合、カタカナ表記では全角の「＝」、ラテン文字表記では半角の「-」で繋がります。

著者名が 2 行以上に渡る場合、名前の途中で折り返さず、著者間で改行することを推奨します。

責任著者には著者名に上付きで「†」を付し、所属機関の後に E-mail アドレスを記載します。

2.4. 所属機関

和文と欧文を併記し、ともにフォントサイズ 10 ポイント・13 ポイント固定とします。各著者名に添えた上付き数字と対応付けて所属機関を記載します。ただし、全著者が同一の機関に属する場合は、上付き数字は不要です。

2.5. 抄録・キーワード

和文・英文ともにフォントサイズ 9 ポイント・行間隔 13 ポイント固定とします。抄録については、段落の先頭を 1 字下げとし、背景色をグレー（RGB: 217, 217, 217 / #D9D9D9）とします。

2.6. 本文

本文は 23 字×43 行×2 段組、段落の先頭を 1 字下げとします。大見出しはフォントサイズ 11 ポイント、中・小見出しおよび本文は 10 ポイントとし、いずれも行間隔 16 ポイント固定とします。大・中見出しの前は 1 行空けますが、小見出しの前は空けません。ただし、この空白行がコラムの先頭に来た場合は、詰めて大見出し・中見出しが先頭に来るようにします。

大・中・小見出しがコラムの最終行に来る場合、次のコラムの先頭に来るように、前に空白行を追加します。Microsoft Word の場合「次の段落と分離しない」を設定すると自動的に反映されます。

和文の句読点は全角の「，」「。」で統一します。

2.7. 図表・写真

キャプションはフォントサイズ9ポイント・行間隔13ポイント固定とします。

図・写真のキャプションは図・写真の下中央、表のキャプションは表の上左寄せとします。

図表・写真と本文、図表・写真相互の間は、1～2行程度の間隔を空けます。

2.8. 利益相反・謝辞・註・引用文献

いずれもフォントサイズ10ポイント・16ポイント固定とします。大見出し「利益相反」「謝辞」「註」「引用文献」には通し番号を付けません。

註と引用文献については、段落の先頭を1字下げではなく1字ぶら下げとします。

註の場合には、本文中の該当箇所「(註1)」と表記した通し番号と対応付け、「註1:」のようにコロンの続けて注釈内容を列記します。

2.9. 引用スタイル

ハーバード方式の一つである Council of Science Editors (CSE) 9th edition name-year style に準拠します。以下に概要を示します。次の Web サイトでもクイックガイドを参照できます。

The CSE Manual 9th Edition: (外部リンク: [☞](#))



Fig. 1 Placeholder title

Table 1 Comparison of characteristics between XXX, YYY, and ZZZ (placeholder)

Item	XXX	YYY	ZZZ
A	A	A	A
B	B	B	B
C	C	C	C
D	D	D	D
E	E	E	E

2.9.1. 本文中

a) 原則として著者名は姓のみ記し、直後に発表年を西暦で記します。

b) 著者名を文章の一部とする場合は、著者名の直後に発表年を () に入れます。

〈例〉「Höppe(1999)によれば…」

c) 文末に示す場合は、著者名と発表年を () に入れ、著者名と発表年の間をコンマで区切ります。

〈例〉「…を提案した(Höppe 1999).」

d) 同一著者の複数文献を一括して引用する場合は、著者名の後に発表年をコンマで区切りながら続けて記します。

〈例〉「Matzarakis et al.(1999, 2008)」, 「(Matzarakis et al. 1999, 2008)」

e) 同一著者による同一発表年の異なる文献を引用する場合は、発表年の後に小文字のアルファベットを付けて区別します。

〈例〉「Nishi and Gagge(1970a)」, 「Nishi and Gagge(1970b)」, 「(Nishi and Gagge 1970a, 1970b)」

f) 同一でない著者を含む複数の文献をまとめて引用する場合は、同一著者ごとにまとめ、間をセミコロンで区切ります。引用順は著者名のアルファベット順とします。

〈例〉「(Matzarakis et al. 1999, 2008; 小野と登内, 2014; 渡邊ほか, 2010)」

g) 著者が2名の場合は、著者間の区切りに和文文献では「と」、欧文文献では"and"を使用します。著者が3名以上の場合は、第一著者名のみを書き、以降を和文文献では「ほか」、欧文文献では"et al." とします。

2.9.2. 引用文献リスト

a) 列記順は、和文文献と欧文文献を区別せず、第一著者の姓・名のアルファベット順とします。第一著者の姓・名が同一の場合は第二著者の姓・名のアルファベット順とします。第三著者以降、同様とします。全著者が同一の文献は発表年の古い順とします。

b) 各文献の記載は、雑誌の場合、著者名・西暦年・表題・雑誌公称略名・巻号・始頁-終頁の順とします。書籍の場合、著者名・表題・編者名(編)・書籍名・発行所・西暦年・引用部分の始頁-終頁の順とします。Web サイトの場合、著者名・公開

(4)

日または最終閲覧日の西暦年・表題・サイト名・公開日または最終閲覧日・URL の順とします。

コンマ (,) やセミコロン (;) などの各記載項目の区切り文字もスタイルに従って使い分けます。

c) 雑誌公称略名が特定できない場合は雑誌正式名称でも可とします。

d) 欧文表記の単語の途中では改行しませんが、URL については、段落の右端を揃えるため、スラッシュ (/) やドット (.) など記号の直後で改行しても良いこととします。ただしその場合でも、ハイフンは追加しません。

なお、雑誌公称略名については、例えば、次の Web サイトで情報を得ることができます。

NLM Catalog: Journals referenced in the NCBI Databases: (外部リンク: [☞](#))

3. おわりに

以降、本文の書式およびスタイルに則った記載例を記します (改訂履歴を除きます)。

利益相反

(例 1) 山田太郎は、株式会社 CCC から研究費の提供を受け、また同社の技術顧問を務めている。田中花子および J.E. Smith は、株式会社 CCC から講演料を受けた。その他の著者に開示すべき利益相反はない。

(例 2) 全著者に開示すべき利益相反はない。

謝辞

本研究の一部は、JSPS 科研費 JP12345678 および株式会社 CCC の研究助成金の支援を受けた。

註

註 1: 本文中に注釈を入れたい箇所の末尾に (註 1) と記載し、ここにその注釈内容を記載します。

註 2: 本文中に注釈を入れたい箇所の末尾に (註 2) と記載し、ここにその注釈内容を記載します。

引用文献

阿岸祐幸. 気候療法. 日本生気象学会編, 生気象学の事典. 朝倉書店; 1992. p 116–117.

青木緑, 春野花子, 秋山登. 1984. 環境中の汚染物質の季節による消長について. 日生気誌. 21(1):9–

20.

Bond TE, Kelly CF, Heitman H. 1958. Improving livestock environment. J Hered. 49:75–79.

環境省. 2006. 熱中症予防情報サイト. [accessed 2025 Oct 22]. http://www.wbgt.env.go.jp/heatstroke_manual.php

Vanwyk JJ, Underwood LE. Growth hormone, somatomedins, and growth failure. In: Kriegler DT, Hughes JC, editors. Neuroendocrinology: adult and pediatric, Sinauer; 1980. p 299–309.

改訂履歴

2022 年 8 月 16 日改訂

2025 年 12 月 1 日改訂 (現行)

※これ以前の制定日および改訂日は記録なし